

第41回 総合関関戦 日程表

日程	種目	試合時間	場所
6/15	バスケットボール	女子: 16:30~ 男子: 18:15~	東体育館メインアリーナ
	アイスホッケー	17:00~19:30	たかつきアイスアリーナ
6/16	ソフトテニス	10:00~17:00	ソフトテニスコート
	準硬式野球	10:00~15:00	KAISERS BASEBALL FIELD
	ラクロス	女子: 10:30~11:35 男子: 12:15~14:00	中央グラウンド
	拳法	10:30~11:30	凱風館3F道場
	相撲	12:30~13:30	新凱風館1F相撲場
	ハンドボール	女子: 13:30~14:30 男子: 15:00~16:00	中央体育館メインアリーナ
	剣道	13:30~16:00	中央体育館サブアリーナB
	陸上ホッケー	男子: 15:05~16:20 女子: 16:40~17:55	中央グラウンド
	卓球	15:00~17:30	東体育館メインアリーナ
	空手道	11:20~12:10	凱風館3F道場
6/17	レスリング	10:00~11:00	中央体育館レスリング場
	器械体操	11:00~15:00	東体育館B1F器械体操練習場
	フェンシング	10:30~15:30	中央体育館サブアリーナB
	バレーボール	女子: 10:30~12:30 男子: 13:30~16:00	東体育館メインアリーナ
	合気道	13:00~14:00	養心館柔道場
	アイススケート	11:30~16:00	たかつきアイスアリーナ
	サッカー	10:00~12:00	中央グラウンド
	古武道	12:00~13:00	中央体育館サブアリーナA
	バドミントン	12:00~15:00	中央体育館メインアリーナ
	野球	13:00~15:00	KAISERS BASEBALL FIELD
6/16 6/17	航空	10:00~15:00	福井空港

本学体育会と関西大学体育会が対戦する、伝統の総合関関戦。41回目となった今年は、6月15日(金)から17日(日)の3日間、関西大学千里山キャンパスをホームグラウンドに開催される。本学は史上初となる10連覇を目指す。

今回の関関戦のスローガンは「覚悟」である。お互い覚悟を決めて、本気でぶつかり合おうという意味が込められている。関西大学がホームになる今回の課題は、本学の一般学生を中心とした集客である。期間中は、前後に試合が

ある部同士で積極的に応援し合ってもらおう。実行委員長の有村拓士さん(人福・3)は「団結は本学で開催されるので、団結をきつかけにして、一般学生の方にもぜひ会場まで足を運んでもらいたい」と話す。

10連覇への「覚悟」

第41回総合関関戦



2018年5月25日 第838号



発行部
関西学院大学新聞 総部
〒662-0891
西宮市上ヶ原1番町1-155
関西学院大学新学生会館3F
電話: (0798) 51-1181
E-mail: kgpress2009@yahoo.co.jp
HP: http://kgpress2009.wixsite.com/kgpress2015
Twitter: @kg_shinbun

扉の一言

我々は10年以内に月へ行く。容易だからではない。困難だからそうするのだ

ジョン・F・ケネディ



実行委員長の有村さん(左)と本部長の平田さん

覇は自分ひとりでは達成できない。一人ひとりが体育会の代表として、関学の代表として活躍できるように、各部門のサポートに全力を注ぎたい」と語った。本学体育会の活躍を応援し、10連覇という歴史的な瞬間に立ち会いたい。(T・N)

学生証で美術館・博物館が無料に
~美術館・博物館キャンパスメンバーズ~

学校法人関西学院は、今年4月から京都国立博物館や国立国際美術館等との連携制度に加入することを発表した。この連携制度では、学生証・教職員証を博物館等の窓口で提示することによって、常設展は無料で観覧できる。また、特別展は割引料金で観覧可能になるといった特典が与えら

最後に、柳屋教授は「時間があるときは芸術に触れて、自らの感性を磨いてほしいで

また、本学は文部科学省からSGU(スーパーグローバル大学)の指定を受けており、海外との交流が盛んである。海外に留学等で渡航した場合、自国の文化を説明でき、さらに自らの感性を磨くためには博物館や美術館の存在が必要である。この連携制度は、重要な役割を持っている。

- 2面 KGニュース
ポランディアEXPO
クラシックギタークラス
チャペルコンサート
- 3面 日進月歩
「連載」追跡!! SGU
- 4面 教授の背中
お店探し隊
- 5面 K.G.studio
部室だより
K.G.PEOPLE
- 6面 入学式首の勧誘活動編を問う

私は幼いころから漫画や雑誌を読むのが好きだ。ふと、作品たちの背景について考えることがある。私たちが手に取る作品一つひとつには、クリエイターたちの努力や苦労が詰まっている。先月13日、政府は国内のインターネット接続業者に対して、いわゆる海賊版サイトへの接続遮断を促す対策を行うことを決定した。いわゆる海賊版サイトとは、漫画や雑誌を無断でインターネット上に公開し、無料で利用者が閲覧できるようにしたサイトのことである。このサイトの利用者の増加により、国

内コンテンツ産業は大きな被害を受けている。作品からの微々たる収益で創作活動を続けている若手のクリエイターたちは、このサイトによって甚大な被害を受けている。彼らの創作活動が困難となることで、コンテンツ産業の未来には陰りが見えてくる。今回は政府が対策を打ち出したことにより改善の兆しが見えたが、それはもはやいたちごっこのようなものだ。動画や音楽などの多くのコンテンツが無料で公開されることを当たり前と考える人が増えている。コンテンツはクリエイターたちの努力の結晶である。それらを見るためには、対価が必要なのではないか。

パンフレット、記念誌、報告書
制作・編集、デザイン

和泉出版印刷株式会社

【本社】
〒594-0083 和泉市池上町4丁目2番21号
TEL: 0725-45-2360(代) FAX: 0725-45-6398
E-mail: info@izumi-syuppan.co.jp

【大阪営業所】
〒540-0026 大阪市中央区本町1-1-6 本町カノヤビル
TEL: 06-6946-1073(代) FAX: 06-6946-7684

新しい出会いを提供 ボランティアEXPO

4月12日から2日間、西宮上ヶ原キャンパスG号館の会議室にて、本学最大のボランティア活動団体紹介イベントである、ボランティアEXPO

Oが開催された。11回目の開催となる今回のテーマは祭り。例年より楽しい雰囲気づくりに力を入れたという。このイベントはヒューマン・サービス支援室学生コーディネーターと、本学の学生が在籍する15のボランティア活動団体の合同企画だ。毎年春に、ボランティア活動をやってみたいという意識はあるが、ボランティア活動団体に詳しくない新入生を対象に催されている。会場には活動内容に関する展示や、各団体から説明を受けられるブースが設けられている。



祭りをテーマとした会場

今回は、来場者が自分に合った団体を見つけやすくする新企画が行われた。学生コーディネーターのブースでおみくじと、ジャンル別

ボランティア適性チャートだ。おみくじは興味のあるジャンルが決まっていけない来場者に向けて行われた。ジャンル別ボランティア適性チャートでは、興味のあるジャンルは決まっているが、どの団体が近いのか分からない来場者に向けて、団体を紹介した。多くの来場者がこの企画に参加し

たという。ボランティアEXPO実行委員長の西岡かりんさん(文・2)は「今回のイベントを通して、新入生には『居場所』を見つけてもらいたかった。ここでの『居場所』とは単なる空間的な意味ではなく、大学生活を送るうえで所属したいと思えるボランティア活動団体や、関係を続けていきたいと思える人という意味。このイベントの開催を通して、少しでも新入生に良い出会いを提供できていれば」と話した。

来場者の半分が回答した任意のアンケートでは、このイベントが有意義であったという意見が99%に上った。今後も、各団体と学生コーディネーターは様々な活動を予定



開催を機に交流を深めた各団体

この音色を後世に

クラシックギタークラブチャペルコンサート

「クラシックギターを、もつとたくさんの人に知ってもらいたい」と語るのは、文化総務クラシックギタークラブ部長の平田萌絵さん(文・3)だ。クラシックギタークラブは今年3月に文学部チャペルで、8日には社会学部チャペルでコンサートを行った。有名なギター曲から、誰もが一度は耳にしたことのある名曲を集めたメドレーを披露し、新入生にクラシックギターならではのサウンドを伝えた。コンサートでは毎回、

10名ほどの部員が参加し、部の雰囲気も共に伝える。今回は新入生歓迎イベントの一環として行われ、たくさんの新

入生が足を運んだ。今回のチャペルでのコンサートは、クラシックギタークラブを身近な存在として感じてもらうことが目的だった。今年は3年生の幹部で話し合った際、チャペルでのコンサートならば新入生がたくさん参加してくれると考え、新入生歓迎イベントとしてチャペルコンサートを行う方針となったという。

チャペルコンサートを行うのは、文学部と社会学部に絞った。文学部と社会学部に

「クラシックギターを、もつとたくさんの人に知ってもらいたい」と語るのは、文化総務クラシックギタークラブ部長の平田萌絵さん(文・3)だ。クラシックギタークラブは今年3月に文学部チャペルで、8日には社会学部チャペルでコンサートを行った。有名なギター曲から、誰もが一度は耳にしたことのある名曲を集めたメドレーを披露し、新入生にクラシックギターならではのサウンドを伝えた。コンサートでは毎回、



チャペルでの四重奏の様子

チャペルコンサートを行うのは、文学部と社会学部に絞った。文学部と社会学部に

「チャペルでの演奏を機に、クラシックギターに興味をもってほしい」と平田さんは語る。部員の想いを乗せた、クラシックギターの音色。今度は、あなたが新入生に届ける番かもしれない。

新たな学舎生まれる

西宮北口にアフタースクール開校

阪急西宮北口駅に、新たな学舎の場が誕生する。来月4月より、学校法人関西学院は西宮北口キャンパス(以下、西北キャンパス)にアフタースクール、関西学院CRESCENT SCHOOL(以下、関学CS)を開校する。対象は本学初等部の児童や、地域の児童も含め50名の予定だ。

関学CSは、放課後の居場所というだけでなく、英語やコンピュータプログラムも含んだ多彩な学びが提供される予定だ。また、教育学部の学生とも連携し、教員志望の学生の実践の場としても期待されている。西北キャンパスは、現在建設中の(仮称)阪急西宮北口ビル7階から10階までを借り受け開設される。キャンパスの主な利用は本学法科大学院だが、その一部に関西学院 NISHIKITA CROSS(以下、関学NC)と呼ばれるスペースを設置する。関学NCは情報発信を目的に設置され、その一部の時間をアフタースクールとして運営する予定だ。法人部の森隆史さんは「阪急西宮北口駅は、本学初等部の児童の半数が利用する駅だ。駅直結の西北キャンパスは、児童の保護者の方々に安心して預けてもらえ、迎えに来やすい良い立地だ」とアピールする。

もちろん、関学CSとの連携は全学部の学生にも期待されている。「ぜひ学生が主体となるグループを作り、関学NC全体を盛り上げてほしい」。そう語るのは広報室の横川修さんだ。横川さんは学生にはまず関心を持つてもらい、学びの選択肢の一つとしても関学NCを活用してほしいと話した。昨今、共働きによる待機児童問題や、男性側の育児休業への意識変化も起こっている。関学CSは社会の動きに合わせた、新たな学舎になるだろう。(A・M)

FYHM

Follow Your Heart & Music

Presented by RECRUIT

ひとりひとりが自分で自分の人生・スタイルを選ぶことができる世の中。十人十色、百人百色の自己実現が可能な世の中こそ、豊かな世の中であると、リクルートは考えています。あなたが自分の心に従って行動を起こすとき、私たちはあなたを支える存在でありたい。そんな想いを、音楽の力で世の中に伝えたい。それが、Follow Your Heart & Music

What's FYHM?

リクルートの目指す世界観『FOLLOW YOUR HEART』とは、直訳すれば「自分の心に従いなさい」。他の誰でもない、自分の人生を自分の意思に従って生きること。今回の『Follow Your Heart & Music presented by RECRUIT』は、この世界観に共感したアーティストに、「挑戦」をテーマにMV(ミュージックビデオ)制作をリクルートがオファーして実現しました。今回の企画の参加アーティストは『緑黄色社会』『バスキエ』『神様、僕は気づいてしまった』『リーガルリリー』『CHAI』の5組。各アーティストは、「挑戦」をテーマに楽曲を選定・制作、また、一歩踏み出して「挑戦」する若者を応援するMVを今回の企画のために制作しました。MVはアーティスト自身が希望するクリエイターとコラボレーションする形で制作しています。

ARTIST

ARTIST #001	ARTIST #002	ARTIST #003	ARTIST #004	ARTIST #005
緑黄色社会	バスキエ	神様、僕は気づいてしまった	リーガルリリー	CHAI

『Follow Your Heart & Music presented by RECRUIT』特設サイトはこちらからチェック!! <http://www.recruit.jp/company/about/involvement/fyhm>

論説 日進月歩 『「伝統である」ことは 正当性の保証にはならない』

を防ぐためであり、女性軽視ではない」とコメントしているものの、信じるに値するかは甚だ疑問だ。この一件は、日本相撲協会が抱える二つの腐敗を顕著に表している。

一つ目は、人命の軽視だ。救命措置は、迅速さが最も重要となる。救急隊員が到着するまでに、いかに早く、正確な応急処置を施すかで生存率は大きく変わる。それにもかかわらず、応急処置を中止させたとなればそれは人命の軽視に他ならないだろう。

相撲協会の人命軽視がみられる点は、これだけではない。2007年に起きた、親方と兄弟子による新弟子の殺害に至るまでの集団暴行や、記憶に新しい元横綱日馬富士による傷害事件、さらにそのいづれも隠蔽しようとした相撲協会の対応。この現状を表すために、「腐敗」以上にうつつけの言葉はない。

二つ目は、伝統と銘打って平然と行われる性差別だ。土俵は女人禁制が伝統となっているが、その明確な理由はない。有力な説として、力士の色欲を絶つため、女性の出産や生理を「穢れ」とみなしているため、などが考えられている。前者であっても女人禁制の正当な理由とは言いがたいが、後者であれば、なおさら許されることではない。

さらに、相撲協会が起す問題はこれにとどまらなかった。市長が倒れた2日後の6日、同じく春巡業の「宝塚場所」にて、女性の市長である中川智子市長(70)の土俵上でのあいさつを拒んだのだ。

これに対し中川市長は「多々見市長と同じ役職でありながら、土俵上であいさつができないのは悔しい。伝統は大事だが、変えるべきこともあるのではないだろうか」と土俵下でのあいさつ中に述べた。同じ市長という立場でありながら、ただ性差ゆえに待遇を変えることは、性差別と呼ぶに十分だろう。

加えて、静岡市で同月8日に開催された「富士山静岡場所」において、力士が小学生らに稽古を付ける「ちびっこ相撲」に、昨年末までは土俵に上ることが許可されていた女子児童の参加が拒否された。理由の説明はなかったという。こちらに至っては、伝統で済まない。説明もないとなれば、性差別を指摘された相撲協会の幼稚な逆上ととらえるのが自然ではないだろうか。

中川市長も言うように、確かに伝統は大切にすべきだ。しかし、人間は差別や迫害を繰り返してきており、少しずつそれを取り除き続けて今日に至る。すなわち、長く続くものにはそれだけ、旧時代の負の遺産が内包されている可能性があるということだ。伝統を、伝統であるというだけで正当化するのには危険ではないだろうか。

そして相撲協会の問題意識の低さは、発端となったアナウンサーに対する、相撲協会の八角理事長のコメントに凝縮されている。「人命にかかわる状況には不適切な対応だった」として謝罪しているのだが、この言い方では「女性は穢れなので通常は土俵に上げ

追跡!! SGU 第19回

校内で異文化交流 「留学生WEEK」はいかが



本学のスーパーグローバル大学事業についてシリーズでお伝えしている「追跡!! SGU」。今回は、SGU事業5つのキーワードのうちの1つである「協定に基づく海外派遣学生数日本一」に関する本学の取り組みを紹介する。今回は「夏休みに、留学を体験してはどうか」という観点から、留学の重要性について触れてきた。しかし、留学はハードルの高いものだと感じている学生も多い。そこで今回は、大学構内にいながら、留学生と交流することができ、イベント「留学生WEEK」について国際教育・協力センター(CIEC)の葉佐賢太郎さんに話を聞いた。

「留学生WEEK」とは

留学生WEEKとは年に1度、6月にCIECによって開催されている、留学生と本学生の交流を深めることを目的に企画された、1週間に行われるイベントである。

主な企画内容は、留学生による日本語スピーチ発表会や、書道などの日本文化体験である。留学生との交流もさることながら、外国の文化や習慣、海外から見た日本の印象を知る機会でもある。

我が国は先進国を自称しているが、今回の一件は、とても先進国の人権感覚とは思いがたい。公的団体がこのありさまでは、我々の倫理観も過信は禁物だろう。今一度我々も自省するとともに、この人命軽視と性差別を断固として糾弾するべきではないだろうか。(H・A)

「留学生WEEK」の意義

本学は、文部科学省からSGUとして認定を受けており、国際化を推進している。そのため、留学生と本学生が交流するイベントも以前から開催されてきた。

中でも、CIECが主催しているコーヒリアワーには

200人以上が参加している。しかし、参加人数が多いため、参加者の中には全員が自由に話し、交流する機会が十分でないという意見もあつたという。一方、留学生WEEKは、留学生と話したいと思っていた人にこそ来てもらい、留学生との仲を深めてもらうことを目的に開催されている。

また、留学生も本学生と気軽に話しくいと感じている。行動力のある留学生の中には、自分でサークルを探して入る人もいるが少数である。本学生との間に溝が生まれていると感じている留学生も多い。

葉佐さんは「こういった本学生や留学生たちが交流し、コミュニケーションが生まれる雰囲気を作り上げることが目標です」と意気込む。

「留学生WEEK」の歴史

留学生WEEKの歴史は古く、2007年に留学生と本学生の交流を願う教員の声から始まった。開始当初は、留学生が母国の料理を作って本学生と食べ、留学生が日本のCOOLだと思ふものについて話すCool Japanトークショーを行っていた。

その後、2015年から留学生WEEKの運営担当になった葉佐さんは、留学生WEEKというイベントの主旨である「本学生と留学生の交流を深めること」に加え、「アカデミックな要素を加える」という思いで内容を練り直した。留学生WEEKを通じて、本学生と留学生の交流を

促進するため、様々な教員やスタッフと協力し、企画・運営に毎年取り組んできた。そして、12回目を迎える留学生WEEKがまた今年も6月にやってくる。

「日本語スピーチ発表会」と「自国・大学紹介」

留学生WEEKで中心となるイベントは2つある。まず一つ目は、6月15日の1時限目、2時限目に行われる「日本語スピーチ発表会」だ。この発表会は留学生WEEKが開催される前から行われてきたもので、歴史が長い。毎年、30~40人の留学生がこの発表会に参加している。スピーチ内容は、「日本の生活」や、「日本の社会」など硬軟織り交ぜられている。使われている日本語は初級から超級レベルまであり、それぞれ3分間以内で発表する。

「最近では、テーマが多様化しているの、聞いている私たちも飽きることはありませんと」葉佐さんは話す。例年、1時限目、2時限目の比較的時間に開催されている日本語スピーチ発表会には、本学生も観覧しにくる。ぜひ、1時限目、2時限目が空いている人は参加してみたいかがだろうか。

日本語スピーチ発表会と双壁をなしているもう一つの中心となるイベントが「自国・大学紹介」である。このイベントでは、海外協定校からの交換留学生たちによる自国や出身大学の紹介を行う。交換留学や海外旅行をしたと考えている人は、海外の

情報を手に入れる良い機会である。海外の情報は紙やインターネットだけでは足りないことが多い。現地の留学生の「生の声」を聞いてみてはいかがだろうか。

その他に、留学生WEEKでは、留学生の故郷の郷土料理が味わえる「各国ランチフェア」(BIGPAPAにて開催)や飲み物片手に、自由に話す「トークサロン」、日本文化に触れるイベントが開催される。

最後に葉佐さんは「日本の文化だけでなく、海外のまったく違う文化を見てほしいです。ぜひ、自分で新しい扉を開き、海外へと目を向けてほしいです」と語った。

海外の大学との連携などを進めて、徹底した国際化を進め、「グローバル大学」を重点支援するために文部科学省が創設した事業。

SGUには、トップ型とグローバル化牽引型(実績を基に、新たな取り組みに挑戦し、グローバル化を牽引する大学)の2つがある。本学は、グローバル化牽引型に採択されている。

「留学生WEEK」の詳細はこちら



「留学生WEEK」の詳細はこちら



『我々は10年以内に月へ行く。容易だからではない。困難だからそうするのだ』

ジョン・F・ケネディ

多くの選択肢がある中で、あえて高い壁に挑戦するのは、それを選ぶとすること自体が難しいものだ。

「我々は10年以内に月へ行く。容易だからではない。困難だからそうするのだ」と述べたのは、第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディだ。多くの偉業を成し遂げた彼であったが、その道は決して楽なものではな

かった。

ケネディといえば快活な青年というイメージが現存する写真から読み取れるが、実際の彼は幼いころから多くの病気を患う病弱な体質であった。また、生まれつき背骨に障害を持ち、激痛に悩まされることも多かったという。議員時代には背骨の手術後に昏睡状態へ陥り、生死の境をさまよったこともあった。

更に自身の体調以外にも

問題は山積みであった。世界初の有人宇宙飛行を成し遂げたソ連は宇宙開発競争に先んじていたうえ、キューバ危機によってアメリカの安全は脅かされ、次の世界大戦が起こるかもしれないと心配された。だが、何度も入院を繰り返しながらも一つ一つ問題を解決し、彼は彼自身とアメリカの夢を語り、それに向かっ

て歩み続けたのである。

1962年に彼がこの言葉を話してから7年後、人類は月面へと降り立ち、宇宙への大いなる一歩を踏み出すこととなる。しかし、彼はその偉業を目にすることなく凶弾に倒れることとなった。だが、その言葉は死後もアメリカに受け継がれ、21世紀の世界へ大きな影響を与えている。

多くの選択肢が広がる大学生活で、簡単な目標を立てるのはすぐにでもできる。だが、あえて困難な目標を選んでこそ、これからの先に新たな道が開けるはずだ。まずは一歩を踏み出してみよう。それは小さくとも、きっとあなたにとっての大きな一歩になるに違いない。(H・N)

教授の背中

川端基夫

商学部 教授



商学部の川端教授は、産業立地論やアジア市場論、国際流通論を専門としている。

小さな頃から外へ出かけることが好きで、登山が趣味だったという教授。「論理的で明快さがあり、趣味とも関連性のある地理学に興味を感じた」と語る。大学時代は、企業立地の空間的な法則性や地域との関係を考える、経済地理学の分野に興味を持つ。教授は商業立地のなかでも、当時研究が進んでいなかった卸売業の立地を研究するようになる。卒業論文では、かつて薬問屋で栄えた大阪・道修町の集積が、郊外への移転等により崩壊していくメカニズムを調べた。

研究者になった当初は、経営立地論を専攻し、製造業も含めた日本企業の立地問題を研究していた。やがて1990年代にグローバル化が進行すると、日本の小売業や卸売業が海外、とりわけアジアへの進出を始める。当時は日米の貿易摩擦が深刻で、卸売業の閉鎖性や非効率性がその一因として批判されていたが、そんな卸売業がなぜ海外に進出するのかに関心をもったという。この卸売業の海外での動向を追ううちに、アジアの小売業や外食産業についても研究するようになったそうだ。「一見すると、経済地理学と流通やマー

地域性重視のマーケティングを

ケティング研究は異分野のように見えるが、私の中では一連のものとしてつながっている」と笑顔で語る。アジアの流通市場を研究するうちに、現在では「地域暗黙知」という概念に関心が移りつつある。地域暗黙知とは、特定の社会で共有された価値観や規範感覚を指す。グローバル化が進行しているとはいえ、最終的には進出先のローカリティ（地域性）をいかに反映させるかがビジネスの成功につながる。各地域の人々が当たり前に行っている感覚「地域暗黙知」こそが今後の国際マーケティングで重要になるといえる。「近年はデータを基に、市場や消費者を普遍化してとらえる傾向がある。しかし、実際には現場に行かないとわからないことが多い」というのが教授の持論だ。現場のローカリティを重視する姿勢は、フィールドワークに取り組みせよの指導においても変わらない。最後に、学生に向けて「様々な問題に幅広く関心を持つてほしい」と語る。大学での学びについては「卒業に必要な単位だけを取って終わるのではもったいない。特に多様な教養科目を積極的に受講してみよう。視野を広く持つ姿勢は、社会に出てからもきっと役に立つ」とアドバイスをもらった。(T・N)

かわばた もとお

- 1980年 大阪市立大学文学部史学地理学科卒業
- 1985年 大阪市立大学大学院文学研究科（経済地理学）修了
- 1991年 龍谷大学経営学部専任講師、助教授を経て教授
- 2001年 博士（経済学）〔大阪市立大学〕
- 2010年 関西学院大学商学部教授

☆基本情報☆

- ・営業時間 17:00~
- ・住所 西宮市松籬荘7-28 コボリマンション1階
- ・TEL 0798-39-7410



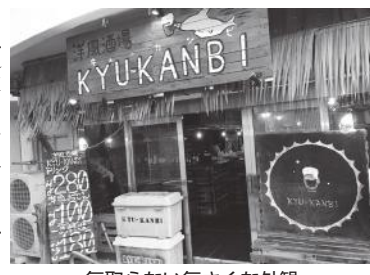
異国情緒溢れる内観

高島さんの言うとおり、確かに価格は抑えた分、当然原価率は高くなる。それでも高島さんは「価格を抑えた分、当然原価率は高くなる。それでも高島さんは「価格を抑えた分、当然原価率は高くなる。それでも高島さんは」

最後に、高島さんは「この店を開いてから、僕が一番楽しんでいるかもしれない。たくさんのお客さんに楽しんでもらえるよう、これからが大仕事だと思っている」と意気込みを露わにした。

マスターの情熱が、店中の形あるものにもないものにも散りばめられた「KYUKANBI」。本学の学生御用達になる日も近いのではないだろうか。(H・A)

おすすめのお店探し隊！
vol.16.
「KYU-KANBI」



気取らない気さくな外観

隠れ家と思わせる、少し奥まった立地。しかし扉を開ければ、映画のワンシーンを思わせる、それでいて陽気な内観が目に入る。木の板で作られた看板に書かれた店「洋風酒場 KYUKANBI」の文字が目印。今回は、先月4日にオープンしたばかりにも関わらず、話題沸騰中のこのお店を

紹介する。お話を伺ったのは、マスターの高島駿さん。本学のOBで、軽音楽のサークルに所属していたという。開店のきっかけについて、高島さんは「自分が学生の時、みんなが集まってお酒を飲むことが好きだったが、どうしてもお金に余裕がなかったため、誰かの家で飲む宅飲みが多かった。そこで、昔の自分のような学生でも気軽にに行ける店があるといいと思い、開店した」と語る。

高島さんの言うとおり、確かに価格は抑えた分、当然原価率は高くなる。それでも高島さんは「価格を抑えた分、当然原価率は高くなる。それでも高島さんは」



K.G. studio

今回のK.G.studioは部室だよりとK.G. PEOPLEです。部室だよりでは体育会馬術部の田中敦也さんに、K.G. PEOPLEでは体育会合気道部副将の上山裕太さんに話を聞きました。

K.G. PEOPLE

#29. 体育会合気道部 副将

上山 裕太さん (法・4)



日本の武道の一つに合気道がある。数多くの流派があるが、大半の流派は決められた型を行う稽古が中心で、試合を行わない。そんな中、本学体育会合気道部(以下、合気道部)は「乱取競技」と呼ばれる試合を行う流派にも所属している。

乱取競技は、1対1の個人競技だ。短刀側と徒手側を交代で行い、それぞれ90秒で試合を行う。技の効果によってポイントが加算され、最終的にポイントの多い選手が勝利するものだ。

合気道部は、昨年11月に行われた第48回全日本学生合気道競技大会にて、史上初の男女ともに団体優勝を果たした。新体制の乱取男子チームを率いたのは、副将の上山裕太さん(法・4)だ。合気道部の幹部の中でも、副将は乱取競技が最も強い選手が就く。上山さんの幹部としての意地が栄光の道を切り開いた。

「選手の中には、きれいな技を掛けたと思う人もいますが、まずは勝つことを徹底した」と上山さんは振り返る。

合気道部は、昨年9月に幹部交代が行われた。体制が変わった直後の大会であるため、上山さんもプレッシャーを感じていた。「OB・OGも注目している大会で、最も大事な自分たちの結果を出すことができた」と、喜びを語った。

上山さんはオーダーも含んだ戦略を練って、大会へと挑んだ。ポイント制の乱取競技では、0.5ポイントでも多い側が多くなる。「一本」にこだわらず、少しでもポイントが入る場外への押し出しなども重ねる策を選んだ。上山さん自身も全試合で勝利することで流れを作り、泥臭い戦いの末にチームは優勝を果たした。

合気道部は、昨年9月に幹部交代が行われた。体制が変わった直後の大会であるため、上山さんもプレッシャーを感じていた。「OB・OGも注目している大会で、最も大事な自分たちの結果を出すことができた」と、喜びを語った。

体育会馬術部

部員数：13名
創部年：1930年
活動日：月曜日を除く午前中
部室：第3フィールド
(アメリカンフットボール場横)
連絡先：atsuya8974@gmail.com
080-6121-9377
HP：https://kg-equestrian.jimdo.com/
Twitter：@KG_equestrian

部室だより

vol.22

体育会馬術部



体育会馬術部の田中敦也さん(商・3)にお話を伺いました。

新聞総部(以下、新)：まず、活動内容を教えてください。田中さん(以下、田)：馬術部の活動は、月曜日以外です。朝の7時に厩舎に集合し、午前中に部活動が終わります。まず、乗馬をする人と厩舎で掃き掃除や桶洗いなどの作業をする人に分かれます。このサイクルは毎日変わり、学年関係なく乗馬が楽しめます。新：乗馬をする人はどのような練習をされるのですか？

田：歩法という速度の異なる3種類の馬の歩き方や、回転運動などを練習しています。土日には障害物を出して障害飛越の練習もします。参加する大会では、馬場馬術という決められたコースを美しく正確に演技できるかを競うもの、障害馬術という障害物を飛び越え、減点やタイムを競うもの、クロスカントリーという森の中を走り、障害物を飛び越えるものの3つがあります。

新：障害を越えるもの以外にもあるのですか？長期休暇はどうされていますか？
田：活動日時は変わりませんが、厩舎で2泊3日程度の夏合宿は行います。これは新入生に活動内容を集中して覚えてほしいからです。新：厩舎に泊まれるのですか？
田：アットホームな雰囲気です。しかし、活動には真剣に向き合うといった、メリハリがあるのいいところです。

新：素晴らしいですね。ところで、馬術という競技は、やはり経験者が多いのでは？
田：そんなことはありません。部員の半数は大学からです。馬術は、初心者でも活躍できますし、監督やコーチもOBなので安心して練習できます。新：半数が初心者とは！すると、田中さんも大学から始められたのですか？
田：そうです。私は大学でスポーツ、中でも異色なスポーツがしたかったんです。それに、動物も好きだったので動物と触れ合えるところを探していました。そうしたら、馬術部に行きました。新：確かに、部活動で動物と触れ合えるのは、馬術部さんだけですね。最後に閣下へメッセージをお願いします。
田：馬術は人と動物、言葉が通じないなかでコミュニケーションをとって、演技をする競技です。また、乗馬クラブではかなり料金がかかりますが、馬術部では格安でたくさん乗れます。スポーツ好きの方はもちろん、動物好きの方もお待ちしています。体験乗馬はいつでもやっているののでぜひご連絡を！(A・M)



文芸部 読み切り小説

「確信犯」の誤用

重枝和盛

言葉の誤用は珍しいことではない。例えば「確信犯」という言葉がある。もとはドイツの刑法学者が提唱した法律用語だそうだが、「自分の道徳的・宗教的・政治的な信念に基づいて行われる犯罪」を意味するのだが、日本では「悪いと分かっているが自然な言葉である。つまり日本の「確信犯」の概念は、意味ではなく前提なのだろう。「悪いと分かっているが自然な言葉」ということを前提に、他の特殊な要素が見出されるとき、我々は「確信犯」と表現するに至るのである。例えば、「行為によるリスククリタインの不釣り合いであったり、その行為による結果に対する、行為者と周囲の人々の予見のギャップであったり」が挙げられるかもしれない。具体例を出すとは長くなるから、ここではこれ以上は触れないでおく。

概念の問題をさておけば、次なる問題は、誤用の普及度が高いということである。当然、言葉は正しく使ったほうが良い。意味の取り違いが起こらないことで、円滑にコミュニケーションが取れるからである。しかし、「確信犯」を筆頭に、一部の言葉は誤用のほうが一般的である。これはいかなるものか。

私は誤用が一般的であっても、無理に正す必要はないという立場である。確かに、言葉は本来の意味で扱ったほうが良い。しかし、会話している者の中で、意味の統一が自覚的・無自覚的に取れていて、会話が成立しているならば、誤用であってもその有効性を認めるべきであると考えられるのである。学問的な世界で誤用をすれば眉を顰められるだろうが、日常では個人やグループレベルで意味の統一が取れていれば都合が良いのだから、それで問題ないという意見である。

さらに幸いにも、日本の「確信犯」においては、法律用語のほうを知っていて、誤用のほうを知らないというところは珍しい。要は両方の意味を把握している者が、場によって合わせれば解決する。「誤用」とは言っているが、このような本来とは異なった意味でまかり通っている言葉は、全く新しい意味が作られただけで、言語的コミュニケーションの観点からは誤用でも何でもないかもしれない。

緊急報告

入学式当日の 勧誘活動規制 を問う

勧誘活動の規制とは？

2016年春の入学式において、配布されたビラによって新入生や大学職員が負傷する事故が発生した。以前より、勧誘活動を行う学生らの混乱に巻き込まれ、式の開始時間までにたどり着けない新入生がいるとの問題もあった。正門から式場となる総合体育館までの動線確保と混乱防止のため、翌2017年春の入学式より、新入生への勧誘活動やビラの配布行為が禁止された。

ただし、勧誘活動については中央芝生内でのみ認められた。団体紹介や連絡先の交換など、新入生との対面接触については認められたが、ビラを使用した勧誘活動は一切禁止された。混雑防止のため、中央芝生内に入れる各団体の勧誘者は一度に4名までとした。式が終了する15時以降は、中央芝生外でも勧誘活動が可能となった。

なお、代替措置として、各学生団体のビラをまとめた「クラブ・サークル新入生勧誘冊子」を学生連盟が作成し、全新生に配布した。



↑大学側による規制告知ポスター

大学側に聞く

今回はスポーツ・文化課の方、学生課の方に取材を行った。入学式当日の職員は、中央芝生の外や甲東園駅、学園花通りなどで安全管理と誘導をしていたという。

今回の取材では、大学側は現段階で規制の強化は考えていないと話す。また、大学側が最も重視しているのは、新入生の安全管理と入学式の円滑な運営ということだった。

スポーツ・文化課の方は「規制が実施される以前までは、学生が新入生めがけて大勢で押しかけていた。規制によって少人数で動くようになったので、悪質な勧誘や新入生の遅延は激減した」と話した。学生課の方も同様に「確かに違反はあったが、以前よりすごくスムーズに入学

式や各学部でのオリエンテーションが行えている」と振り返る。

また、今回の規制違反団体に対する対応については、学生連盟との協議次第とのことだった。両氏との会話からは「学生自身による規制の意味の理解と組織内での徹底、学生の代表である学生連盟の働きかけにも期待したい」という思いが感じられた。

大学側もHPやSNS、各団体へのチラシの配布を行い、規制の周知を図った。しかし、規制が守られていないということは、幹部しか内容を熟知していない団体や、規制自体を知らない団体だったのかもしれない。学生連盟には大学側と密に連携の上で規制の周知を徹底し、勧誘機会の平等公平化を期待する。

学生連盟側に聞く

学生連盟本部部長の湊雅哉さん(教・3)に、学生連盟としての当日の対応や、今後の展望を聞いた。

まず、入学式当日は最大10人の学生連盟本部の本部長が、中央芝生内外で巡回をしていた。ビラの配布など違反行為を行う団体に対しては、見つけ次第注意喚起を行った。何度も注意喚起を受けるなど悪質な事例に対しては、団体の名前と連絡先を聞くようにしていたという。入学式の2日間で、違反行為は20件前後にも上っている。

ただ、違反行為を行う団体に対して、特に罰則のような規定を設けなかった。また、ビラの判別が難しく、

団体側にビラではないと言い張られると、踏み込んだ対応はできなかった。公認団体に対しては勧誘活動の禁止や、大学側との協議の上で団体の活動停止といった厳しい措置を取ることもできる。だが、サークル等の未登録団体への対応が一律の規制を難しくさせている。

本部長と大学職員の間に対応の差が生じていたのも事実だ。本部長とはいえ、学生同士で指摘し合うことへの限界もある。全体でのミーティングが設定されなかったことも影響しているのかもしれない。

在校生への規制の周知に加えて、来年以降は新入生に対してもビラの配布が禁止されていることを知らせていきたいとした。

本部員の証言

実際に学生連盟本部長として取り締まりに当たった私の所感としては、一部学生の幼稚さが際立つ結果になったということだ。違反行為を行う団体は、大きく二つに分かれていた。違反行為と自覚しているか、否かである。

前者に対しては、高等教育を終えた、近く社会人となる人間、およびその集団として当然身に着けているべき管理能力が欠如していると言わざるを得ない。もちろん、実際に違反行為した団体にすべての非があるわけではないのかもしれないが、やはりどこかに、大学にて「教養」を学ぶに至らない人間が存在している

ことには変わらない。

後者については、高等教育以前、すなわち義務教育で学ぶべき倫理観が備わっていない学生がいることに対し、もはや嘆くことしかできない。中には「ほかの団体もやっている」と、反論と呼ぶことすらはばかれる世迷い事を述べる団体も存在した。倫理観の欠乏ゆえに、その学生が周囲からの失望や不信感を買うことは自己責任の範囲だ。しかし、他人、特に何も知らない新入生をその犠牲にしないでいただきたい。受けた勧誘が違反と知らず、そんな先輩たちの背中を追いかけ4年間を過ごしてしまう新入生がいるかと思うと、憤りが収まらない。

取材を終えて…

学生による自治を掲げる本学であるが、この入学式はその限界を感じさせるものとなった。少なくとも、自治により決定した規則を、事前に抗議を出すこともなく、ただ自団体の利益のために軽んじる学生に、自律が必須となる自治が可能だとは考え難い。

学生各々が自制と自律ができないのであれば、学生が自治権という権力を持つにふさわしくないとと言える。学生連盟も、自身の権限のみで解決を図ることが困難なのであれば、学生側から大学に協力を要請すべきではなかったのか。

また、大学側の主張である「式の進行がスムーズであった」ということは、当たり前である。けがす

ら発生した、一昨年までが異常だったのだ。

このありさまでは、学生自治は建前に過ぎないと言われかねない。確かに、徐々に改善に向かってはいるが、まだ十分ではない。自身が規則を遵守するのは当然のこと、規則違反を見逃してはならない。我々は、自治を行う権力者である。その象徴ともいえる学生連盟の、来年の働きに期待したい。



↑入学式当日はビラ配布の違反行為が多く見受けられた

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。



兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com

